

BEEF で「情報基礎」

神戸大学 情報基盤センター

1. はじめに

全学共通教育科目「情報基礎」は、平成6年度より本学の新生全員に対して実施しています。「情報基礎」は、学内外の情報システムの利用に関する基本を学び、本学の学生として相応しい情報リテラシー教育を身につけることを目的としており、コンピュータによる実習を伴う授業です。これまで、「情報基礎」授業の実施は、情報基盤センターで独自開発した「情報基礎」e-Learning システムを用いて行ってきましたが、LMS BEEF¹の運用開始にあわせて、コンテンツの大半を BEEF に引越しました。ここでは、BEEF を用いた「情報基礎」の実施方法について解説します。BEEF で利用できる多くの機能を活用していますので、授業実施や受講の参考になれば幸いです。

2. クラスとコース

「情報基礎」は、表1に示すように6単元に分かれており、それぞれの単元ごとに1コマが割り当てられています。授業担当者は、授業手順書にしたがって、オンラインテキストを用いた講義および教育用端末を用いて実習を行い、授業中にレポート課題を課し、授業の終わりには授業の理解度を問う「ちからだめし」およびアンケートを実施します。

表1. 情報基礎のカリキュラム

第1回	学内共同利用のための環境
第2回	電子メール
第3回	インターネットの利用
第4回	インターネット社会でのセキュリティ
第5回	情報の活用
第6回	情報倫理

BEEF には、教務情報システムに登録されているすべての開講科目が時間割コードごとに「コース」として登録されています。BEEF では、「活動」や「リソース」を活用することによって、授業を組み立てていきます。「活動」は、課題、小テスト、フィードバック、投票といった「コース」の受講者の活動を伴うものであり、「リソース」はファイルやページ、URL など「コース」の資料となるものを提示するものです。



¹ Web を活用して、学生への講義資料の配布・レポートの提出・小テストやアンケート実施・教員と学生の間や学生同士のコミュニケーションを支援するシステムです。このシステムは、Moodle というオープンソフトウェアを用いており、教務情報システムや神戸大学統合ユーザ管理システムと連携しています (<https://beef.center.kobe-u.ac.jp>)。BEEF の概要については、「神戸大学 LMS コトハジメ」、MAGE Vol.34, No.42 (2014)を参照ください。

「情報基礎」は、各学部や学科ごとにクラス分けされており、全部で 23 クラスが「コース」として登録されています。全てのクラスで同じ内容を異なる担当者が実施します。このため、1つのコースにコンテンツを作成して、これをすべてのコースにコピーしました。コピーには、「バックアップ」と「リストア」の機能を使い、1つのコースを複数のコースに一気にリストアできるようなツールを新たに作成しました。レポートや小テストの締め切り日の設定はクラスごとに違いますので、これはコースごとに手作業で設定しました。

3. インターネットの利用

- World Wide Webがインターネットの一つのアプリケーションであることを理解し、インターネットの仕組みを簡単に理解します。
- Webブラウジングにおける批判的閲覧の重要性を理解し、それを実際に体験します。
- 検索で見つけたWebページを評価できるようになります。

インターネットの利用

課題レポート(第3回)

ちからだめし(第3回)

授業アンケート(第3回)

3. テキスト(「ブック」の利用)

BEEFで授業資料を提示するには、pdfを直接アップロードする方法がよく用いられていますが、「情報基礎」では、「ブック」というリソースを用いています。「ブック」は「ページ」と似ていて、BEEF上で直接コンテンツを編集しますが、ページを一冊の本のようにまとめることができます。「ブック」では、「章」「節」を作ることができ、自動的に目次を作成します。

ブック全体を一括して表示、印刷したいときは、「ブック管理」の「ブックを丸ごと印刷」を選択すると、ブック全体が1ページで表示されます。編集は、「ブック管理」の「編集モードを始める」で開始します。編集画面では、「章の題名」と「内容」を入力します。

目次

1 インターネットとは

1.1 ネットワークのネットワーク

1.2 ドメインとコンピュータ名

1.3 インターネットでの通信

2 World Wide Webとその仕組み

2.1 Webページのアドレス

2.2 HTML

3 Webを閲覧するときのテクニック

3.1 ポータルサイトと検索サービスを使う

3.2 検索サイトの使い方

3.3 ブックマーク(Bookmark)を使う

4 Webサイトの情報の批判的

[前期][U868] 情報基礎

インターネットの利用

1 インターネットとは

インターネットは、現在世界最大のコンピュータ・ネットワークのことを指し、英語では**the Internet**と書く固有名詞です。

World Wide Webや電子メールはインターネットのアプリケーション(応用)で、インターネットには他にもさまざまなアプリケーションがあります。

ここでは、これらの仕組みについて概説します。

[ブックを丸ごと印刷する]

インターネットの利用

サイト: 神戸大学MS BEEF: Basic Environment for Educational Frontier 2015
 コース: [前期][U868] 情報基礎
 フォーク: インターネットの利用
 印刷者: 熊本 悦子
 日時: 2016年02月1日(月曜日) 18:25

目次

[1 インターネットとは](#)
[1.1 ネットワークのネットワーク](#)
[1.2 ドメインとコンピュータ名](#)
[1.3 インターネットでの通信](#)
[2 World Wide Webとその仕組み](#)
[2.1 Webページのアドレス](#)
[2.2 HTML](#)
[3 Webを閲覧するときのテクニック](#)
[3.1 ポータルサイトと検索サービスを使う](#)
[3.2 検索サイトの使い方](#)
[3.3 ブックマーク \(Bookmark\) を使う](#)
[4 Webサイトの情報の批判的閲覧](#)
[4.1 Webページの批判的閲覧の基礎](#)
[4.2 信頼ある情報源でも信頼性を吟味しよう](#)
[4.3 まとめ](#)

1 インターネットとは

インターネットは、現在世界最大のコンピュータ・ネットワークのことを指し、英語では**the In**す。

4. レポート(「課題」)

レポート課題は、「課題」という活動を用いています。出題した課題に対して、BEEFに用意されたフォームに直接書き込んで提出する方法と、ファイルをアップロードする方法を用いています。授業では、フォームに直接解答を書き込むと、途中保存ができないのでWordやテキストエディタなどほかのアプリケーションで解答を作成してから、文章をコピーアンドペーストして提出するよう指導しています。ところが、現在のバージョンでは、ペーストはショートカットキー(Commad+V)しか受け付けてくれず、マウスの右クリックで「ペースト」を選択してもペーストされません。ショートカットキーを使い慣れない1年生には、最初は不便に感じられますが、これを機会にショートカットキーの利用を習得してもらい、効率の良い編集方法の学習にも一役買っています。

レポート提出に関する期日は、「開始日時」「終了日時」「遮断日時」を設定できます。「終了日時」が過ぎても、

レポートは提出することができますが、「遮断日時」を過ぎると提出できなくなります。例えば、授業実施日の授業開始後 1 時間を「開始日時」に設定し、一週間後の締め切り日を「終了日時」と設定し、なんらかの理由でレポートを遅れて提出する人のために「遮断日時」までは提出可とするといったことが可能です。レポートの評価を行うときに表示される日時は、最後に解答を編集した日時になります。「終了日時」すなわち締め切りに遅れたレポートは提出日時が赤字で表示されますので、遅れたことが一目瞭然です。

課題レポート(第3回)

下に指示するものを検索し、検索したWebページに対して、批判的閲覧の締め切りは、「提出ステータス」の「終了日時」です。

検索テーマ

以下のキーワードの中からひとつ選び、そのキーワードに関する情報(政府関係(.go.jp)や学術機関(.ac.jp)以外から検索してください)

「心のケア」、「持続可能な社会」、「インクルーシブな社会」。

提出ステータス

提出ステータス	未提出
評定ステータス	未評定
終了日時	2016年 05月 31日(火曜日) 23:55
残り時間	120日 5時間

課題を追加する

あなたの提出に変更を加えます。

オンラインテキスト

ここに回答を書きます。 |

パス: p

キャンセル 変更を保存する

ファイル提出

新しいファイルの最大サイズ: 50MB / 最大添付: 1

ここにドラッグ&ドロップして、ファイルを追加することができます。

キャンセル 変更を保存する

5. ちからだめし(「小テスト」の利用)

毎回の授業の理解度を問う「ちからだめし」では、「小テスト」という活動を用いています。各単元20問程度の拓一式または、複数選択の小テストを用意しておき、「問題バンク」に登録します。ここから、テストの実施の際に、ランダムに 10 問出題します。問題の順番や、選択肢の順番も出題ごとに変わります。小テストに解答した後にすぐに採点して、結果を知ることができます。結果を知らせないこともできますし、設定した得点に達するまでなんども受験させることもできます。「情報基礎」では、受験のチャンスは2回で、そのうち得点の高い方を小テストの得点としています。

問 1 未解答 最大得点 1.00

Safariの「ブックマーク」は他のWWWブラウザなどでは何と呼ばれますか? 以下に挙げたうち、適切なものを1つ選びなさい。

1つ選択してください:

- 1. Reminder (リマインダー)
- 2. Favorite (お気に入り)
- 3. List (リスト)
- 4. Address (アドレス)
- 5. Property (プロパティ)

問 2 未解答 最大得点 1.00

WWWについての記述で正しいものを2つ選択しなさい。

1つまたはそれ以上選択してください:

- 1. WWWを利用するにはSafariを使うしかない。
- 2. WWWはコンピュータ同士をネットワークで接続したインターネットのことである。
- 3. WWWはWeb on World Wide Webの略である。
- 4. WWWはWorld Wide Webの略である。
- 5. WWWはインターネットに接続されたコンピュータ上のWebページ同士をリンクできることが特徴である。

問 3 未解答 最大得点 1.00

インターネット上のコンピュータを特定するための数字の組を何というか?

1つ選択してください:

- 1. IPアドレス
- 2. TCP/IP
- 3. URL
- 4. ドメイン名

すべてを選択する / すべての選択を解除する

選択した問題を移動する >> ページ: 移動

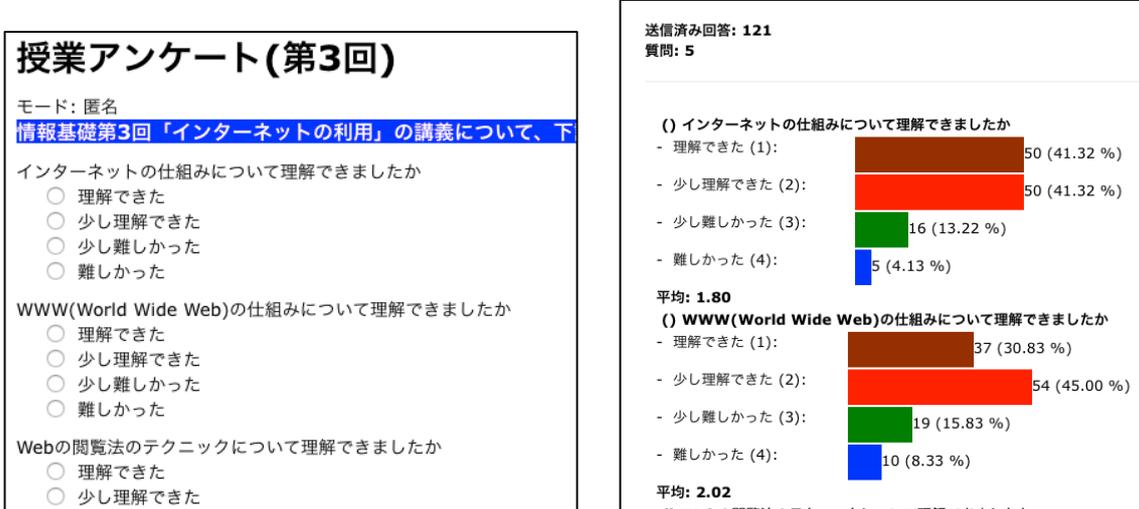
問題を並べ替える

ページ 1

<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	10	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	20	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	30	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	40	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	50	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	60	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	70	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	80	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	90	
<input type="checkbox"/>	ランダム問題: インターネットの Q	100	

6. アンケート(「フィードバック」)

情報基礎では、毎回の授業でその単元の理解度を確かめるためにアンケートを行っています。アンケートには「フィードバック」という活動を用いています。授業中にアンケートに回答してもらい、すぐに結果を閲覧することができます。アンケート結果は、公開することもできますので、次の授業の際にアンケート結果を見せながら、授業の振り返り等を行うことが可能です。



7. 成績の閲覧(「評定」)

レポートの採点は、提出された解答を見ながら、オンラインで行います。採点の画面には、最終提出日時と提出された解答(ファイル)が一覧されています。解答に対してコメントを添えることや提出された doc や pdf のファイルを一旦ダウンロードし、コメントを書き入れたファイルを、フィードバックとしてアップロードし、学生に返却することができます。

8. 出席確認

情報基礎の出席確認は、これまでに開発した「情報基礎」専用の e-Learning システムで開発した端末へのログイン状況をもとに出席を確認する仕組みを利用しています。「情報基礎」を実施している演習室の教育用端末から直接 BEEF にログインしていた時間を集計する、という方法も考えられ、将来的にはそのような仕組みを考えたいと思っていますが、端末のない講義室等での出席確認に BEEF を利用するには、工夫が必要となります。良い方法がありましたら、紹介したいと思います。

9. スタッフ用ページ(Venture の利用)

「情報基礎」は、同じ教材を使って複数の担当教員が授業を行うため、情報共有のために授業担当者用のコースを設けています。このコースは、BEEF Venture という BEEF2015 とは別の LMS に設けていて、授業の進行方法などの資料や、採点基準、その他のお知らせなどを掲載しています。BEEF Venture は、教務システムに登録されている授業以外の研究や教育、研修等のために利用できる LMS BEEF のサブシステムです。

10. おわりに

全学共通教育科目「情報基礎」で LMS BEEF を用いることで、学部1年生全員が入学後すぐに BEEF の使い方を習得しますので、他の授業において講義内で BEEF の使い方について説明する必要がありません。年次更新で BEEF 経験者が増えますので、それにつれて、授業での BEEF 活用が広がることを期待しています。